

『天御中主神示集』

～ JDR 神示集 ～

【あとがき】

天御中主神である。JDRの神示集は、これで終わりではなく、これが始まりなのである。この神示集は、新しき時代の幕開けを告げ知らせるファンファーレなのである。我は、これよりJDR運動を開始してゆく。

そのためのJDRの同志・JDRの使徒を募りたい。特に、大志を抱ける青年の使徒を募りたい。志ある者よ、崇高なる理想を抱ける者よ、どうか、我が下に手紙をいただきたい。我が下に集っていただきたい。

我は、この神示の大半を、兵庫県の「加古川」という地で著述したのである。兵庫という地は、靈的に観ると、日本の子宮にあたるのであり、かの兵庫県南部地震も、新生日本を産み落としてゆく陣痛であると言えなくもないのである。

我は、この兵庫の中でも、最も靈的波動の静かな清らかな地・加古川を、新時代の聖地に選んだのである。ここから、加古川の流れのように、新しい光明思想の大河が、光そのものの大河が流れてゆくのである。

かつて、天理教に「天理市」があり、大本教に「綾部」があったように、JDR運動発祥の聖地として、「加古川」があるのである。

よって、願わくば、志あるJDRの諸君よ、聖地加古川に集っていただきたい。そして、かの吉田松蔭の松下村塾のように、この加古川の地から、大いなる新生日本建設のうねりを起こしてゆこうではないか。また、JDR運動を大いに助けていただきたい。

さらには、JDR大黒天となられる方の出現も、神は切に要請する。神の山城は、経済的基盤がなければ、地に根付くことは出来ない。そこで、聖なる使命として、大黒天という役割が、高天原にも存在するのである。

世の富める方々よ、世の豊かなる方々よ、いや、貧者の一灯というのが如き志を持ちたるJDRの使徒の方々よ、どうか、JDRに、切なる資金を投入していただきたい。

与えた者は与えられると云うが、これは永遠の真理である。聖なる資金を与えたる者は、高天原の大国主命達の光が与えられ、さらに豊かになってゆかれることであろう。

また、加古川に集い来られないJDRの諸君よ、汝らには、汝ら独自の使命がある。汝ら自身が、その地を照らすべく、天御中主神より聖使命を受け

たる神主であると思って、聖なる心を持って、聖なる光の拠点を築いていただきたい。

一人一人の日本人の聖なる生命が目覚め始める時期、この日本は、一つの生命体として、かの鳳凰の如き光明を放つ国家となってゆくのである。

かかる日本国の実相を地上に実現してゆくために、心の革命、精神の革命を起こしてゆこうではないか。共に頑張ってゆこう。